

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

令和3年度病虫害発生予報第2号

令和3年4月28日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	やや多	モモ	ナシメシクイ カメムシ類	早 やや早	並 少
	ヒメトビウンカ	—	少	ブドウ	灰色かび病	早 早	並 並
	縞葉枯病	—	少		べと病		
	ツマグロヨコバイ	—	並	キュウリ等	灰色かび病	—	やや少
萎縮病	—	並	イネミズゾウムシ		並	並	
麦類	アブラムシ類	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	やや少
	ヤノハモグリバエ	—	やや多	タマネギ	べと病	—	多
ジャガイモ	疫病	並	並	ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	やや少
モモ	灰星病	—	やや少	アブラナ科 野菜	アブラムシ類	並	やや少
	黒星病	早	並		コナガ	並	並
	せん孔細菌病	—	やや少	キク	アブラムシ類	並	やや少
	褐さび病	早	並		ウメシロカイガラムシ	—	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発 生 量 **やや多**

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年よりやや多かったことから、種籾の伝染源量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発 生 量	ヒメトビウンカ (第1世代幼虫)	少
	縞葉枯病	少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は1頭で平年(44.2頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閑田)における縞葉枯病保毒虫率は0%であり、平年(7.0%)よりやや低かった。

ウ. 昨年の縞葉枯病の発生は平年並であった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発 生 量	ツマグロヨコバイ (第1世代幼虫)	並
	萎縮病	並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は13頭で平年(16.1頭)並であった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期	並	発 生 量	並
------	---	-------	---

予報の根拠

ア. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並、越冬成虫の本田への飛込み時期は平年並と考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発 生 量 やや少

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は21.7%で平年(57.0%)より低く、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発 生 量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月23日の巡回調査によると、発生圃場率は52.2%で平年(15.6%)より高く、発生程度は一部を除き平年並であった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作と

したり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育はほぼ平年並である。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査では、花腐れの発生圃場率は14.3%で平年(21.8%)よりやや低かった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は早めに推移している。

イ. 4月20日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生圃場率は0%で平年(13.6%)より低かった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度植物防疫情報第13号(3月12日発表)参照。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は早めに推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(5.7

%)より低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年(3.9頭)より少なかった。

ウ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の発生予察圃場における越冬成虫の生存率は91.5%で平年(89.7%、平成28年までの過去10年間の平均値)並である。なお、4月3半旬に初発生を認め、4半旬に最盛期となった。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月3日以前と推測され、平年(4月8日)より早かった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、向こう1か月の気温はほぼ平年並とされている。

ウ. 4月1～4半旬の誘殺数は13頭で平年(21.8頭)より少なかった。

(8) カメムシ類

予報内容

発生時期 やや早 発生量 少

予報の根拠

ア. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少ないとされており、飛来にやや好適な条件である。

イ. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯(赤磐市)への飛来予測数はチャバネアオカメムシが11.9頭(平年543.0頭)、クサギカメムシが11.2頭(平年103.6頭)で平年より少ないと予測される。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は早めに推移している。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 早 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育は早めに推移している。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. ブドウベと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤(アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤)に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されてい

る。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。

イ. ベと病菌は被害葉で越冬し、翌年5月以降、降雨時に葉裏の気孔から侵入して5月下旬頃から葉に発病することから、前年の被害葉は圃場外に持ち出して処分し、伝染源の除去に努める。

3. 野菜

(キュウリ、ナス、トマト、イチゴ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20、21日の巡回調査によると、発生圃場率は、トマトでは33.3%と平成(55.4%)よりやや低く、イチゴでは18.2%と平成(32.4%)より低かった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平成(キュウリ0%、ナス3.3%：10年間で1年のみ発生)並であった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平成並、降水量は平成並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(イチゴ)

(1) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20、21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平成(11.8%)より低かった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平成並、降水量は平成並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(タマネギ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査によると、発生圃場率は81.3%(平成35.6%)、発病程度は32.5(平成20.4)と平成より高かった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平成並、降水量は平成並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 令和2年度病害虫発生予察注意報第5号(令和3年3月24日発表)参照。

(ナス、キュウリ)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20、21日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平成よりやや少なかった。

イ. 4月22日の季節予報(1か月予報)によると、気温はほぼ平成並、降水量は平成並か少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は124頭で、
 平年（227.2頭）より少なかった。
- イ. 4月21日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認め
 ず、発生圃場率は平年（8.5%）並であった。
- ウ. 4月22日の季節予報（1か月予報）によると、気温はほぼ平年並、
 降水量は平年並か少ないとされており、特に発生を助長する条件では
 ない。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は、
 22頭で、平年（24.8頭）並であった。
- イ. 4月21日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年
 （発生圃場率：0%）並であった。
- ウ. 4月22日の季節予報（1か月予報）によると、気温はほぼ平年並、
 降水量は平年並か少ないとされており、特に発生を助長する条件では
 ない。

4. 花き類

(キ ク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は124頭で、
 平年（227.2頭）より少なかった。
- イ. 4月20日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%であり、平年
 （発生圃場率：42.3%）よりやや少なかった。
- ウ. 4月22日の季節予報（1か月予報）によると、気温はほぼ平年並、
 降水量は平年並か少ないとされており、特に発生を助長する条件では
 ない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、 <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

